

夢のある農家生活を育む



北海道北見専技室 主任専門技術員

片山 寿美子

ゆとりを感じさせる農家のたたずまい

はじめに

いま、農業は物を作り出すことに^{＊なだり}臆をつり上げ、頭や心のゆとりを失い、声ばかり荒らげているというヒステリックな状況から抜け出し、魅力の持てる農業と農家生活の創造へと動き始めている。

先ごろ示された「新農政プラン」や「農村女性中長期ビジョン」等でも、魅力ある農業と生活の発展継承をテーマにした物づくりや人づくりの方向が示され、農業が、多くの人たちとふれあいを深めつつ、夢を持って暮らす新しい生活おこしの時機に満ちている。

このような状況にあって、酪農で夢を育み、心地の良いデイリーライフのために考えていかなければならないことは何か、農村の夢事情を踏まえ、これからの生活づくりを考えてみたい。

1 農家生活で論議されていること

農家生活の問題は、そこで暮らす人たちの生き方、とりわけ女性たちの生き方に起因していることが多く、生活の問題は女性の問題であるともいわれている。

農村の中には、「稼ぐに追いつく貧乏なし」、「働かざる者食うべからず」、「女賢うして牛売り損なう」、「女の浅知恵」等々、女性の自主性を奪い、盲従させようとする男性優位の論理がいまだにまかり通っている。

このような、おやじストッパーの影響を受け、女性が自己埋没していくたびに、農家の生活から夢と輝きが消え、足元がおぼつかない状態になる。さらには、農業の担い手としての感性や能力をも鈍らせる結果となり、働けど働けど儲けられずと

いった状況で息を詰まらせている。

しかし、農業であれば、このようなことは当たり前であるとし、真剣に考えようとならない傾向が多い。それでも、農村の生活問題を調査して見ると、女性たちは次のようなことをいつも問題として挙げている。

☆女性が意識している農家の生活問題

- 多世代同居が90%であるのに、世代間の役割はあいまいで不平等である。
- 農作業に拘束され、自由な時間が持てない。
- 自分のことが自分で決められない（決定権がない）。
- 働いても労働報酬を手にするのがない
(たまに小遣いが2～3万もらえる程度)。
- 経営全体の内容把握ができない(させない)。
- 生活設計が立てられない(夢もてない)。

このことにより、一見、仕方がないと丸飲みしている暮らし方やあいまいな経営姿勢に対する不安と不満が女性たちの心の奥底でくすぶっていることが分かる。こんな暮らし方に対し、30歳代の若い主婦たちは、

こんな暮らしイヤだ！ ただ働きもイヤだ！
自分で自分の暮らしを育てたい……

このように、自分らしい生き方を主張し、自分自身が納得して働けるようにと、簿記の記帳学習や労働報酬確保など新しい生活づくりを目指して動き始めている。もはや、農家だからという特殊性でお茶を濁すのではなく、ことの解決に当たり、真剣に向かい合う勇気を持って行動し始めてきたのだが……

このような女性の試みに対し、

- ・楽しみばかり追求しては、農業は産業として強くなれない。
- ・儲かる産業にすることがまず第1である。
- ・儲けるためには、少しくらいの犠牲はやむを得まい。
- ・だから、当分は我慢しなければなるまい。

以上のような考え方が強く、世の風は以外に冷ややかである。

これに対し、女性たちは、

- ・自分の生に方、つまり自分の心や時間、報酬を犠牲にして、稼いださなければならないような農業経営で、本当に農業は強くなれるのか？
- ・夢も楽しみも伸ばせられないような状況で、農業が自立できるのか？ と反論している。

言うならば、儲けるためとは言いながら自分の生活を犠牲にして、どうする心算なのだと問いかけ続けている。

2 農家生活づくりの課題

いま、経営の形態を問わず、農業が抱えている問題の根本には、自分の生きる基盤である家庭生活を粗末にした農業の営み方に原因があったと思われる。

したがって、これからは農業で寝食が満たせるということだけではなく、家族が平等な立場で役割や責任を認め合い、喜びを分かち合うことができる、ゆとりを考慮した経営を育てることが今後の生活おこしの課題になる。

- ・農業経営には夢が大切。
- ・夢のないところに、生き生きと働き働ける人は生まれない。
- ・人が輝けないところに、元気な農業も暮らしも望めない。

☆魅力あるカントリーライフの創造

その課題は夢づくりと人づくり。

3 魅力ある生活づくりの方向

(1)ヨーロッパの農家生活

昨夏、ドイツとフランスで農家生活を視察したが、その生活の質の高さに驚嘆させられた。何を満足とするかは、それぞれ価値観が違うので一概

に言いきれないが、教えられることが多かったので少し紹介する。

★ドイツとフランスで教えられたこと

- ・生活の場に安らぎと潤いが得られるように、生活の環境がきちんと整備され、それを誇りにしていること。
- ・このことは、人から言われて仕方なくというのではなく、生活の信条として日常生活中に定着させ楽しんでいること。
- ・その表れか、家の周りも家の中も整然と整頓されているばかりでなく、いたるところに何気なく手作りの手芸品が飾られ、心豊かな生活感にあふれて、生活がゆったりと落ち着き、大切に考えられていたこと。

農家生活の理想とする姿の原点に触れた思いで感動しつつ、わが本道の現実の状態を思い浮かべ、生活に対する思いを新たにさせられた。

★ 夢づくりの背景

ゆったりと落ち着いた農家生活が存在している背景には、農業も生活も夫婦が共同で築き上げるというパートナーシップが確立していたことに加え、暮らし方のルールが家族で明確に理解しあえるように、生活協定という形で整備され、生活も保障されていた。

このことが、女性に揺るぎない自信を与え、質の高い生活づくりが実現されるのだと思われる。

なお、このような生活をつくり上げるための女性の平等な権利は、天からの授かりものではなく、女性たちが地位の向上と生活の向上を願い、自ら勇気を持って行動し、勝ち取ったものであるとあ



写真1 経営の内容や方針を説明するお母さん

ちこちで聞かされたが、このことを教えてくれる女性たちは誇りと自信に満ちあふれ輝いていた。

こんなお母さんたちを目の前にしながら、おやじストッパーに泣き、隠れ星で口説いている場合ではないと痛感した。

4 夢育む生活のために

だれしも、こう暮らしたいという夢を持っている。酪農家には牛飼いのロマンがあり、その夢に向かって経営があった。夢つくり上げていくためには、規模拡大が急務で、自分たちの生活を楽しむ視点は薄く、いつの間にか現実の重みに負け、夢は遠のき、明日はないとうそぶかせる結果になっていた。

しかし、いつまでも夢もてない酪農経営は本物でないような気がする。もうそろそろ自分たちの暮らしの夢を取り戻してもよいころである。

夢取り戻すためには、

・生活設計で夢を探すこと

自分たちがどんな生き方をしたいのか、生活設計を通じて夢探しをする必要がある。

生活設計は暮らしの夢つくりであるばかりでなく、経営の目標つくりでもあるので、それぞれの夢が実現可能かどうか、農業生産の状況など考慮して検討することが大切である。

・あいまいさを解消する

親と子、夫婦であるが故に明確にしておかなければならない暮らし方のルールがある。

ルールの確立のためには、家族それぞれの精神、経済、時間の自立が前提になるので、これ



写真2 合理的に整備されているキッチン

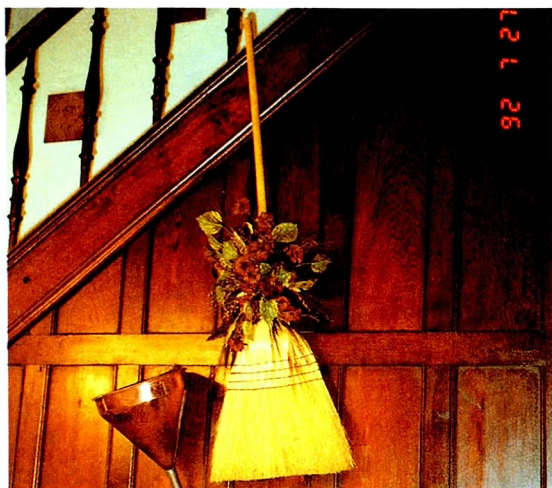


写真3 生活用品を野の花でコーディネートしたぼうきのインテリア

らのことを考慮し進めることが大切である。最近では労働報酬の支給の仕方、経営委譲とその後の親の扶養の仕方、住まい方、共通生活費の負担の仕方などが積極的に検討され始めている。

・女性の感性を大切に

女性がどんなに元気がよくても、夫の協力、つまり許可がなくては、自由に動けない状態が多い。生活や経営の中で、女性が伸びやかに力を発揮できなければ夢は育てられないので、女性がしなびた大根みたいにならないように、暮らせる条件を整備することが大切である。

ま と め

いろんな問題を抱えながらも、農村のあちこちには、賢く元気なお母さんや心が広く本当にかくましいお父さんたちがいる。

このような人たちが描くカントリーライフは夢いっぱい、明るい明日が見えます。

現実の重みで息が苦しくなったら、深呼吸して、夢に向かってまた歩き始めましょう。

今日からは、お父さんとお母さんが共同で、わが家の生活と経営を築くのです。

にこにこ生活、いきいき農業、そのスタミナはお父さんとお母さんの夢がエネルギーです。